

さあ、地域から日本を変えよう

太成ホールディングス株式会社

(菱 菱工産業株式会社)



本社外観

企業概要

代表取締役社長

今村 太一氏



所在地 三重県津市あかつ台1丁目6-5
TEL:059-253-8558 FAX:059-269-6464

設立 太成ホールディングス株式会社:2023年(令和5年)2月
菱工産業株式会社:1960年(昭和35年)7月

資本金 500万円(太成ホールディングス株式会社)

従業員数 145名(連結)(2024年11月現在)

事業内容 電設資材、住宅設備機器、FA機器空調設備機器、省力化設備機械の設計・製作・各種製作・板金加工(自動制御設備・省電力化設備・物流設備・鍛造機【ベルトハンマー機】)、換気設備・空調設備の設計・施工、自動制御装置・情報通信システム設計及び製作、制御盤・配電盤・動力盤の設計及び製作、電子機器開発・設計及び製作

URL 太成ホールディングス株式会社 <https://taisei-hds.co.jp/>
菱工産業株式会社 <https://ryoukou-sangyo.co.jp/>



太成ホールディングス株式会社は、津市の菱工産業株式会社を中核とした持株会社である。地域企業の課題解決に取り組むことと地域の成長と繁栄を支援することを使命とし、2023年2月に設立された。現在、国内の5社、ベトナムの1社をグループ傘下に持ち、グループ全体の売上高は2024年8月期で60億円にのぼる。太成ホールディングス株式会社および菱工産業株式

地域企業の課題を解決する企業

共育ちの精神で地域の課題解決をお手伝いする。

会社の代表取締役社長を務めるのが今村太一氏だ。

電設資材・FA機器等の卸売事業を行う菱工産業株式会社は1960年、今村氏の祖父・村田宗明氏が津市に創業した大成電機産業株式会社をルーツとしている。以来、四日市市、伊勢市と次々と営業所を開設し、事業エリアを拡大していった。1998年、村田氏と共に会社を築き上げた生え抜き社員の中川英二氏が代表取締役に就任。2000年に大成電機産業株式会社と株式会社三重菱システムが合併し、菱工産業株式会社となった。そして、さらに営業所を拡大し、地域密着の堅実な企業へと育て上げた。

理想の会社経営を実現するために

「もともと家業を継ぐ予定はなかった」という今村氏。大阪に本社を置く大手電設資材専門



社内で活発な同好会活動



社内研修の様子

若手のやる気を引き出す 職場づくり

驚くのはそのスピードだが、その背景にはこれまでに立てた入念な計画と今村社長自らが構築してきた仲間や協力者の存在がある。

社長就任後、まず力を入れたのが人材育成だ。当時は入社してもない社員の離職率が非常に高かったという。この喫緊の課題を解決するため、新入社員向けの研修制度と人事評価制度を導入した。

「新入社員が辞めなくなる理由を探った」と今村社長。例えば、入社後に雑用的な仕事が続くと「いつまでこれをやらされるのか」「こんなことをするために会社に入ったわけではない」といったフラストレーションが溜まりやすかった。そこで、職種ごとに業務を分解し

たロジックツリーを作成。仕事のステップを論理的に示し、新入社員研修で説明するようにした。事業年度開始時には社員本人と評価者として、一年の目標と達成するためのプロセスを描いたOJT計画書を作成。今、担当している業務が将来にどう繋がっているかが明確になったことで、新入社員が抱えがちな入社後のモヤモヤ感は解消されたという。

人事評価制度もユニークだ。基本給に加え、担当業務のレベルとその達成度を数値化し、業務偏差値を算出するという。事業所ごとの売上や利益も偏差値化し、合計した偏差値により賞与や昇進、昇給の額を決定している。一見、無機質なようにも思えるが、評価者の主観に左右され



フラットで会話が弾みやすいオフィス環境

地域から日本を変えていく

グループ全体として掲げる目標は、年間売上高100億円。売上規模の拡大を目指す背景には、「地域から日本を良くしたい」という今村社長の思いがある。日本が抱えるさまざまな課題について政治に期待しつつも、あくまで頑張るのは民間企業と考えている。「小さい会社があかを訴えても影響力に乏しい。まずは売上100億円を達成することで行政や他社と協同していくことも可能になるはず」と今村社長はその真意を語る。

「まずはコミュニケーションレベルで住みやすく働きやすい社会をつくり、その輪を広げながら日本全

ない評価システムは若手社員に概ね好意的に受け入れられているという。

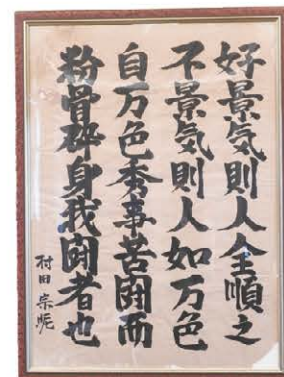
こうした制度を導入することにより、離職率は1割以下にまで改善された。社員の若返りも進み、現在の平均年齢は37歳。30代の取締役も複数おり、若手が存分に力を発揮できる環境が整っている。



社屋内観



倉庫



社長室には祖父・村田宗昭氏の書が掲げられている

商社で営業職として順調にキャリアを積んでいた一方で、規模の大きな会社ならではの意思決定の遅さや自分の意見を発しづらい環境にもどかしさを感じていた。帰省した折、祖父から「仕事は楽しいか」と聞かれ、初めて仕事に対するネガティブな想いを吐露したという。「中小企業のオーナーであれば自分の思うように舵取りができるぞ」。祖父の

新分野参入と 一気通貫体制の確立

電設資材業界を見渡すと、大きく高圧・低圧・弱電・制御の4つの専門分野に分かれる。今村社長はそこで、業界の5%を占めるに過ぎない制御分野に目をつけた。「工場での機械化、自動化が進む中で、今後はFA（ファクトリーオートメーション）機器や制御盤などの設備需要が増える。しかし、制御分野を担える業者が圧倒的に足りていない」。これを好機ととらえた今村社長は制御分野への参入に大きく舵を切った。

M&Aにより事業領域を拡大

2023年2月、太成ホールディングス株式会社を設立。4月

今村社長は未来の会社づくりをイメージし、「取り組みたい17のリスト」を社長就任前から作成していた。誰と何をして何を實現したいのかを考え、優先順位をつけて計画を立てていたのだ。

リストに書いていたことのひとつに、「一気通貫体制をつくる」がある。電設資材業界は商社機能をもった会社が営業窓口として仕事を受注し、各専門会社に業務を外注する流れが一般的だ。「日本国内なら通用するが、海外展開も含めて考えるならそれでは厳しい」。今村社長は同一資本のもと、チームでソリューションに取り組むことが会社の競争力を高めることにつながると考え、電気設備の資材販売から設計、製作、施工まで担える体制を構築するため、関連事業会社のM&Aを進めるとともにホールディングス会社設立に踏み切った。



出展メーカー多数の「菱工大展示会」の様子

には自動制御装置・情報通信システム設計及び製作等を行う株式会社オルテクスをM&Aし、さらに換気設備・空調設備の設計・施工を行う大成プラント設計株式会社を設立した。6月には中核会社である菱工産業株式会社、そして既に子会社化していた、省力化設備機械の設計・製作を行う株式会社福井太成マシナリー（旧 有限会社谷口鉄工所）をグループに組み入れた。2024年3月に太陽光発電システム販売・施工を行うユメヤ株式会社をM&Aし、5月には省力化機械設計製造を行うベトナムの現地法人SYSTEM INTEGRATION MANAGEMENT



百五銀行 津駅前支店長
兼 栗真出張所長
西川 孝則

支店より一言

同社は「取引先の課題解決に取り組むことで、地域の活性化に貢献する」というグループの目指す姿を掲げ、お客さまの多様なニーズに応えるためさまざまな領域への拡大を図っています。また注目すべき点は事業領域の拡大だけではなく、グループとしての人的資本に関する取り組みです。若手社員を含めたワークエンゲージメントの高まりが、同社の躍進をさらに後押しするものと期待しています。

体を良くしていく」。現在、同じ志を持つ若き社長たちと地域をより良く変えていこうと奮闘している。

太成ホールディングス株式会社、そして菱工産業株式会社は、地域そして日本をより良く変えていくため、これからさまざまな変革をもたらす続けてくれるだろう。

編 〓 会員事業部 中嶋 理可